

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300287		
法人名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
事業所名	高齢者グループホーム ひかり		
所在地	三重県名張市美旗中村2326番地5		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491300287-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5年 1月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設の周辺は自然環境が豊かで、春の桜、秋の栗など季節や自然を体感できるような立地となっている。 ・施設の庭で果物や野菜などを栽培し、入居者に収穫してもらい、調理して食べるということ で、重要なレクリエーションのひとつになっている。 ・コロナ禍のこともあり、外出の機会が減っていることもあるが、屋内で様々な催し物をして楽しんでもらっている。ひかり音楽祭、お菓子作り、盆踊り大会、クリスマスなど。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高度経済成長期に名張市では初の大規模な住宅団地「桔梗が丘」が造成された。その中で約60年と言う永きに渡り「障がい者支援」に力を入れ地域に貢献して来たのが当法人である。人とのつながりを大切にし地域と共に成長して来たその法人の中に2017年4月に事業者が設立された。名張市が力を入れている「地域共生社会」に法人も事業所も協力体制を取りながら取り組んでいる。また国のデジタル庁発足と同時に業務管理、情報の共有などに活用する電子データを導入し、データによる情報を解析しながら更なる利用者への支援に力を入れている。その流れに添うよう職員への指導もコミュニケーションを取りながら分かりやすく丁寧に行っている。また家族からの信頼の厚さもアンケートから伺える事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作り上げた事業理念および事業所のクレドについても目につくところに掲示し、折に触れ振り返り、実践に努めている。	本来の理念を更に深く掘り下げ、分かりやすい言葉で表現しようと職員一丸となって一年がかりで【ひかりのクレド】を作り上げた。常に思い浮かべる事が出来る「のんびり」「おだやか」「えがお」「よりそう」と言う言葉に決まり実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外部との接触に制限があり、交流が難しい状況である。	法人の長年の貢献により地域とのつきあいは密であり、毎日の挨拶や電話での相談、世間話もできる等つきあいが途切れる事はない。法人のこども園とのオンラインでの交流が今年もでき喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の日常などをブログで公開することで、認知症の理解や支援について地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議の中止が続いている。本来の会期にあわせ、関係者に事業所の現状について書類を郵送している。書類には意見書の用紙を同封し、要望、質問を求めている。	運営推進会議を書面で送っており意見書を頂いている。その中に「コロナ禍で頑張っているのを応援する」や、ヒヤリハットについてのその後の様子を知りたいなどの意見があり、今後の支援に活かすことが出来た。	前年度のステップであった意見書作成により、貴重な意見を頂け活かすこともできた。更なるステップとしてヒヤリハットの報告の仕方などの検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、生活支援室、介護高齢支援室など、関係する市町の窓口担当と連絡を取りあうことで関係を築いている。	会議や研修などもオンラインであるが連携は取れており、お互いの信頼関係も良く、気楽に相談や意見も言い合える基盤が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、やむなく施錠している。月1回、職員間で、身体拘束の有無の確認を行い、自らの支援を振り返る機会をもうけている。	身体拘束適正化委員会や職員への研修、マニュアルの資料など確実に揃え実行している。身体拘束については毎月の話し合いや振り返りで意識付けをしている。今は「ドラッグロック」と「スピーチロック」について常に話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を中心に、月1回、虐待事例検討を実施し、虐待について考え、学ぶ機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などの開催もなく、学ぶ機会が持てない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、書類をみながら丁寧な説明を心がけている。疑問点についても納得いただけるよう真摯に向き合い、解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などの機会に、ご家族の意見や要望を聞き取っている。入居者様においては、日常の会話の中から意見・要望を拾い上げている。	全家族からのアンケートの返信とその内容から、家族とは良好なコミュニケーションと信頼関係の深さが伺える。コロナ禍で大変な中でも職員の言葉や態度に好感を持っており、気楽に意見を言い、話し合える関係である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、法人内メールや面談など聞き取りの機会を設け、職員の意見の反映に向け検討している。	1年かけて【ひかりのクレド】を全員で話し合い、意見を述べ合い完成させる等チームワーク力の強さがある。又、庭の畑、ダンボールでの神輿や鳥居作りなどは職員の家族が積極的に作って下さり運営協力にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員が面談を行い、管理者が職員の思いや意見を聞く機会をもうけている。安全衛生委員会への参加等により、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修への参加は難しい状況になっている。法人内の研修には参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流が難しい状況となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、希望・要望・不安などを傾聴し、信頼関係の構築に努め、入居後の生活について、不安を払拭するべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のこともあり、施設見学は実施していないが、通常であれば、入居前にご家族に施設見学をしていただき、面談等を通じて、質問や要望を聞き、話し合うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの相談を受けた場合は、希望するサービスについて、意見交換を行いつつ、見極めを行う。他の事業所との連携も視野に入れて、ご本人にとって適切なサービスの提供を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人の状態、適性、好み等にあった役割を担って頂くことで、やりがいをもって日々の生活を送っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会時にはご本人の様子を伝え、近況報告や支援について相談をし、ご本人の健康状態や生活ぶりについて、情報を共有を行い、ともに支えあう関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外出や面会が制限されており、旧知の人や場所との関係継続が難しい状況にある。ご家族とは玄関ガラス戸越しに面会を行い、電話を使って会話をしている。	事業所内で昔の映画を観る時、懐かしい俳優の話や当時の自分の生活などをお喋りしたり、カラオケの先生だった利用者の歌を聞きながら思い出話をしたりと「事業所内での馴染み」を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格、生活歴、認知症症状の違いなどを職員が把握し、入居者間で葛藤が生じた場合は、職員が仲介をするなどして、入居者同士の良好な関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も求めに応じて相談を受け、情報共有を行うなど、良好な関係を保つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日ごろの言動について、支援記録や「要望・苦情」の受付などを利用して、意向をくみ取るようにしている。他にも連絡ノート、職員会議などを通して、職員全員で入居者の思いや意向を共有するようにしている。	日頃記入している電子データを解析し、必要な支援やサービス内容の検討をしている。また家族とはGメールで意見や要望を聞き、事業所一丸となって利用者の思いや意向を把握し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、担当ケアマネジャーからの聞き取り、フェイスシートなどから、これまでの生活歴、既往歴、生活環境、性格等について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援記録から、入居者おひとりおひとりの暮らしぶりの把握に努めている。記録にはバイタルの数値もあり、心身の変化も把握している。また、直接、入居者さんと話すなどして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見は、職員会議、グループウェア、連絡ノート、直接訊ねるなどで、ご家族に対してはメール、電話、面談などを通じて、主治医の意見は訪問診療の日に意見を伺い、介護計画、モニタリングに反映させている。	日々の電子データ・グループウェア・介護支援専門員の支援記録などから介護計画を作成し、支援内容の実践・評価等を行っている。家族とは出来る限り会話をもち意見交換している。今後はそれも記録に残し、更なる希望に沿った支援を行う予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄、バイタル、日々の様子は個別記録に残し情報共有をしている。職員とは連絡ノートやグループウェアを使い情報共有をし、日々の支援に活かすと共に、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望を中心に、ご家族の希望や要望を聞くと同時に、職員の意見も聞きながら、実現に向けて検討を重ね、可能なものから実現するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの流行が続いている現状があり、地域資源との協働はまだ困難である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月1回の受診と、必要に応じて専門医の診察も受けるようにしている。専門医の受診の場合は、職員・家族が同行している。	利用者全員が事業所の協力医である。月1回の往診時電子データを送り、日々の血圧・排便・食事量・薬などの健康情報は勿論の事、過去のデータもすぐに確認でき状態変化への対応もスムーズに出来る。適切な支援に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の主治医の受診の際、同行の看護師、また法人所属の看護師に、入居者状況を伝え、アドバイスをもらえるよう日頃から連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、医療機関との連絡調整を行い、家族にも同席してもらう。特に退院時の支援については、ご家族も交えて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期医療には対応していないことを伝え、重度化してひかりでの生活が困難になり、他施設に移る場合の施設探しから、入所申請等についても協力も行っている。	終末期医療は行っていないが、直ぐ近くに緩和ケアを行っている事業所があり協力体制を取っている。家族・利用者へ安心に繋がるよう詳しく説明、常に情報は共有している。協力医との連携も取れており、24時間対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当講習を受講し、AED、心肺蘇生の方法等の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を行い、職員、利用者共に災害時の対応について訓練している。また、防災頭巾、ヘルメットは常備している。	災害対策は法人の年間計画に応じ訓練をしており、マニュアルも揃っている。事業所としては、毎月色々な災害について計画し訓練している。消防署・地域自治会などとの協力体制も整っているが、コロナ禍で希薄になっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりを尊重し、話しかける際は敬語を使っている。また、入浴時、排泄時などプライバシーに配慮が必要な場面での言葉掛けには、特に注意している。	【ひかりのクレド】作成の1年間で一人ひとりの尊重やプライバシーへの配慮、対応の仕方、言葉の掛け方、何故その言葉はダメなのか等しっかりと話し合った。一人ひとりに合った支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は本人の意思確認だが、自分の思いを伝えられない場合は、表情や全体の様子を見て、選択肢を示すなど、可能な限り入居者本人の自己決定となるよう配慮に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活、起床時間、就寝時間などについては個人のペースを大切に、可能な限り個々の生活ペースにあわせている。またレクリエーションなどの参加についても、本人の希望に沿う形で参加していただき、無理に参加してもらうことはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好みのものを選ぶように愛用の衣類、化粧品などを居室に置いている。選択が難しい方については、ご家族から伺ったご本人の好みに近づけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が給食になり、入居者と職員と一緒にできる作業が少なくなった。しかし、下膳、食器洗いなど、入居者に協力してもらえ部分を残している。食事形態は、個々の状態に合わせている。メニューボードを用意し、入居者にメニュー確認ができるようにしている。10時の水分補給は好みの飲み物を選んでもらっている。	朝食だけは事業所で作り、昼食・夕食は1500cal位の食事が法人から届く。利用者には個々で出来る事は出来るだけして頂いている。メニューは利用者がボードに記入され、レクリエーションとしてのおやつ作りも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、職員で共有している。食事・水分の摂取量が少ない場合、ご本人の意向を踏まえたうえで声掛けをしている。無理強いはいしない。必要に応じて、医療機関に相談するなどして、健康管理にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科医の往診を受けている。その際、治療が必要と歯科医が判断した場合は、別途歯科医院を受診する。また起床時と就寝前に、個々の状態に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々の排泄リズムを把握し、必要な方には定時排泄の声掛けをし、ご本人の様子からトイレ誘導をすることもある。リハビリパンツやパットについては、できるだけ使用しないように努め、自立的な排泄ができるように努めている。	排泄の自立支援に力を入れており、出来るだけおむつ対応にならないように努めている。車椅子の利用者でも立位が取れる方はトイレへ誘導し、他の利用者もレベルの現状維持を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動が不足しがちなため、レクリエーションや日課に室内散歩を取り入れ、体を動かす機会を確保するよう努めている。水分不足にならないように水分の摂取量を把握し、必要に応じて、主治医のアドバイスをうけ、処方薬による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯を決めているが、ご本人が入浴をしたくないときには、時間・入浴日の変更と、入浴を楽しめるように柔軟に対応している。湯温や入浴時間を個々の好みに合わせるようにして、個浴で職員と1対1で会話を楽しみながら、入浴できるように努めている。	午前と午後に分けて週2回の入浴で、個浴ではあるがリフト付きであり立位の不安定な方もゆっくり入浴できる。利用者と職員と1対1での入浴なので1時間くらいお喋りが出来、貴重なコミュニケーションタイムにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと自室の移動は自由で、ご本人の過ごしたい場所で過ごしてもらるようにしている。睡眠に関しては、安心・安楽に眠ることができるように、居室の温度管理、照明・光彩の調整を行っている。またご本人に馴染みのある毛布の使用や縫いぐるみなどを置くことで、安心して眠ってもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個人ファイルにある薬情を確認できるようにしている。変薬があった場合には、主治医に副作用について確認し、連絡ノート等への記入、口頭による申し送り、グループウェアを使った配信により、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前情報や入居後の様子観察などから知った情報をもとに、ご本人の好みなどを推測し、試行し、日所生活のなかに楽しんでできる役割の設定や、楽しめるレクリエーションを配置するなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出機会が減っていることから、ドライブなどで気分転換をはかってもらうように努めている。	ブログにて外出やイベントでの様子を知らせている。今年のお正月は事業所に大きな鳥居を作り、巫女の衣装なども揃えるなど本格的なお参りが出来た。また音楽祭・運動会・夏祭り・サツマイモの収穫祭など、コロナ禍の中でも楽しいイベントが出来、利用者にも好評だった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者もいるが、使いたいという希望はない。希望があった場合には、ご本人・家族と相談して対応を考える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方については、自由に使用して頂くようにしている。携帯電話をお持ちでない方については、希望があれば事務所の電話を使用していただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用の空間については、清潔保持に心がけている。日中時間帯については、室温計を確認し、空調、加湿などの調整を行い、過ごすのに最適な状態になるよう努めている。壁面の飾りつけは、季節にあわせて、職員と入居者で行っている。	共有空間は外からの見学だったが庭が南北にあり、風がリビングを優しく通り抜ける造りになっている。室内から外がよく見え室外にしているような空間になっている。壁には手作りの作品が並び、殆どの利用者が居室ではなくリビングで過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングには、ソファとテーブルがあり、好きな場所に好きなように自分の居場所をつくることのできるようになっている。友人とソファで語らうこともできるし、自分の席でパズルや塗り絵をすることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具などの配置は、ご本人、ご家族と相談して決める。ご本人にとって、居心地が良いと感じる空間づくりに努めている。	写真での見学だったがベッドだけ事業所が用意し、他は利用者と家族で自由にセッティングされている。釣りをしている自分の写真を飾る利用者、ぬいぐるみと休む利用者等、一人ひとり個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設置、建物内には、リビング、トイレ、浴室などの案内表示もある。入居者の自立した生活に役立つ工夫をしている。		